

---

# 特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

## 2024年 通常総会

### 議案書

---

1. 日 時 2024年6月15日（土）16:30～18:00（受付開始16:20）
2. 場 所 小山市生涯学習センター・ギャラリー  
（栃木県小山市中央町3-7-1 ロブレ6階）  
Zoomによるオンライン会議  
<https://us02web.zoom.us/j/85005786905?pwd=TG9TNC82UStKbmZIRi9pam4vZC9odz09>  
ミーティング ID: 850 0578 6905 パスコード: 456922
3. 議 題 第1号議案 2023年度事業報告（案）  
第2号議案 2023年度事収支決算（案）  
第3号議案 短期計画の達成状況（案）  
第4号議案 2024年度事業計画（案）  
第5号議案 2024年度事収支予算（案）  
第6号議案 2024年度役員人事（案）



NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F

TEL/FAX 03-3834-6566 Eメール info@ramnet-j.org

## 2023 年度 事業報告(案)

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)  
特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

### 1. 会員数の状況

会員種別	年会費	2023 年度 [人]	2022 年度 [人]	2021 年度 [人]
一般正会員	1 口 5,000 円	94	96	98
団体正会員	1 口 10,000 円	23	22	21
特別正会員	50,000 円以上	5	5	5
一般賛助会員	1 口 2,000 円	109	106	111
団体賛助会員	1 口 10,000 円	4	3	3
特別賛助会員	30,000 円以上	1	1	1
企業賛助会員	1 口 100,000 円	0	0	0
総数		236	233	239

(2023 年 3 月 31 日現在)

### 2. 助成金・受託事業の状況

- 1) 地球環境基金助成金：田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト
  - ・ 2023 年 4 月～2024 年 3 月 231 万円
- 2) パタゴニア環境助成金プログラム：久米島プロジェクト
  - ・ 2023 年 6 月～2024 年 2 月 200 万円
- 3) GoogleAP：渡良瀬プロジェクト
  - ・ 2023 年 4 月～2024 年 3 月 4,335,333 円
- 4) 環境省：ラムサール条約第 14 回締約国会議における決議和訳業務
  - ・ 2023 年 4 月 5 日～2023 年 6 月 30 日 923,000 円
- 5) 環境省：ラムサール条約情報票作成マニュアル和訳等業務
  - ・ 2024 年 2 月 21 日～2024 年 3 月 22 日 970,000 円
- 6) その他の協賛企業：MS&AD、コープデリ、JA 全農

### 3. 会議の開催の状況

- 1) 総会・理事会（すべて Zoom によるオンライン会議）

2023 年

6 月 3 日 第 1 回理事会

6 月 17 日 第 2 回理事会

6 月 17 日 通常総会

2) 運営会議（すべて Zoom によるオンライン会議）

11 回開催

（2023 年 4 月 28 日、5 月 29 日、7 月 3 日、8 月 2 日、9 月 6 日、10 月 2 日、11 月 1 日、12 月 8 日、2024 年 1 月 10 日、2 月 7 日、3 月 7 日）

3) 会員獲得 PT

7 月 12 日

4. 事業の実施の状況(時系列)

4-1 調査研究事業 ※ [ ] 内は参加者

2023 年

- 5 月 13 日 たましま干潟と鳥の会 シンポジウム共催
- 6 月 27 日 環境省ハマシギ専門家会議参加 [柏木]
- 8 月 31 日 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP) シギ・チドリ類作業部会参加 (オンライン)
- 9 月 16 日 日本鳥学会 2023 参加 [柏木] (ラムネット J) などが中心となって集積したデータ「国内ヘラシギ観察記録」に関する口頭発表: 清水孟彦氏)
- 9 月 20 日 環境省フライウェイ国内モニタリング検討会報告会 (オンライン) 参加 [柏木]
- 10 月 1 日 シギ・チドリ類緊急対策会議 (オンライン)
- 10 月 28 日 たましま干潟と鳥の会 干潟の生きもの観察会共催
- 11 月 18 日 第 4 回 吉野川河口みらい講座共催
- 11 月 23 日 第 5 回 吉野川河口みらい講座共催
- 11 月 28 日 シギ・チドリ類緊急対策会議 (オンライン)
- 12 月 26 日 環境省ハマシギ専門家会議参加 [柏木]

2024 年

- 1 月 16 日 ハマシギ国内会議 [柏木]
- 1 月 17 日 環境省ハマシギ専門家会議参加 [柏木]
- 1 月 26~27 日 EAAFP ヘラシギ特別委員会 (中国・深圳市) [柏木]
- 2 月 13 日 環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査検討会 [柏木]
- 2 月 19 日 EAAFP 国内連絡会に参加 [柏木]
- 3 月 1 日 ハマシギ国内会議 [柏木]
- 3 月 28 日 たましま干潟と鳥の会 コアジサシデコイペイントワークショップ 共催

## 4-2 保全・再生事業

### 4-2-1 保全再生事業（具体的な保全対象地がある場合）

#### 4-2-1-1 沖縄・開発問題部会

2023 年

- 4 月 3 日 岐阜県御嵩町美佐野ハナノキ湿地群の現地視察
- 6 月 6 日 「石垣リゾート&コミュニティ計画」に係る知事許可事項に対する陳情【他団体と連名】
- 8 月 7 日 美佐野ハナノキ打ち合わせ（オンライン）①
- 8 月 22 日 美佐野ハナノキ打ち合わせ（オンライン）②
- 9 月 1 日 美佐野ハナノキ打ち合わせ（オンライン）③
- 9 月 15 日 美佐野ハナノキ打ち合わせ（オンライン）④
- 10 月 6 日 美佐野ハナノキ湿地群の保全を求める意見書を岐阜県、御嵩町に面談で提出 記者会見も行う
- 11 月 7 日 質問書「美佐野ハナノキ湿地群の保全について」を岐阜県に送付（岐阜県から同年 12 月 12 日付けで回答が届く）

2024 年

- 2 月 8 日 那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業に係る環境影響評価方法書に対するパブリックコメントを送付

#### 4-2-1-2 水田部会（田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト）

2023 年

- 4 月 5 日 第 113 回水田部会
- 5 月 3 日 第 114 回水田部会
- 6 月 6 日 第 115 回水田部会
- 7 月 4 日 第 116 回水田部会
- 7 月 18 日 「『生物多様性』と『食料・農業・農村基本法』の意見交換会」を生物多様性と農業政策研究会（NPO 法人オリザネットほか 5 団体）として共催
- 7 月 26 日 水田の水閘（水抜き栓）管理実験説明会（宮城県登米市・伊豆沼サンクチュアリセンター追館）
- 8 月 1 日 第 117 回水田部会
- 8 月 18・19 日 第 1 回田んぼ 2030 プロジェクト検討ワークショップ（宮城県大崎市）
- 8 月 28 日 水田と OECM・自然共生サイトワークショップ（オンライン）
- 9 月 5 日 第 118 回水田部会
- 9 月 22 日 第 4 回ミニフォーラム「田んぼの OECM/自然共生サイトへの登録~その可能性と課題~」（オンライン）

- 10月3日 第119回水田部会
- 10月12日 『田んぼ2030だより』第4号発行
- 10月28日 地域交流会 in 徳島・小松島市
- 11月10日 第120回水田部会
- 11月18・19日 第6回ICEBA共催（佐渡市）
- 11月22~24日 臨時水田部会
- 12月7日 第121回水田部会
- 12月15日 第5回ミニフォーラム「生物多様性を向上させる農法—大規模調査の成果報告と、農業の現場での生物多様性の向上を考える」(オンライン)
- 12月22・23日 水田の地下水位計測用の穴掘りとパイプ挿入
- 12月26日 『田んぼ2030だより』第5号発行
- 2024年
- 1月9日 第122回水田部会
- 1月26日 第2回田んぼ2030プロジェクト検討ワークショップ（オンライン）
- 2月6日 第123回水田部会
- 2月28日 第6回ミニフォーラム「生物多様性を向上させる農法を学ぶ～不耕起栽培～」(オンライン)
- 3月5日 第124回水田部会
- 3月19日 『田んぼ2030だより』第6号発行
- 3月30日 ラムサール条約 COP14 水田サイドイベント（報告）ウェブサイト掲載

#### 4-3 政策提言事業（対象地域は不特定）

##### 4-3-1 国別報告書 Section4プロジェクト

- 10月24日 オンライン会議
- 10月30日 オンライン会議
- 11月27日 オンライン会議

##### 4-3-2 農業と生物多様性保全について農林水産省、環境省、国交省との意見交換および関係者への意見表明

2023年

- 4月26日 第95回水田決議円卓準備会
- 6月21日 第96回水田決議円卓準備会
- 9月27日 第97回水田決議円卓準備会
- 12月6日 第98回水田決議円卓準備会

2024年

- 1月30日 第99回水田決議円卓準備会  
 3月14日 第100回水田決議円卓準備会および第100回記念懇親会

#### 4-3-3 その他の声明等

- 1) 10月6日「美佐野ハナノキ湿地群の保全を求める意見書」を岐阜県および岐阜県御嵩町に提出
- 2) 6月6日「石垣リゾート&コミュニティ計画」に係る知事許可事項に対する陳情【他団体と連名】

#### 4-4 普及・啓発事業

2023年

- 4月～7月 「湿地のグリーンウェイブ2023」キャンペーン実施  
 4月 「湿地のグリーンウェイブ2023」リーフレット（A5判16頁／2,500部）制作・発行  
 4月8日 「湿地のグリーンウェイブ2023 キックオフミーティング～地域の湿地が地球を救う～」をオンラインで開催（基調講演：石川拓哉さん（環境省自然環境局環境計画課））  
 4月26日 「お茶会」を開催（話題提供「諫早湾干拓事業、開門問題どうなってるの？」陣内隆之さん〔有明海漁民・市民ネットワーク 事務局/ラムネットJ 理事〕）  
 5月17日 WGWチームミーティング  
 5月24日 「お茶会」を開催（話題提供「アジアの干潟と人をつなぐ鳥・クロツラヘラサギ」松本悟さん〔ラムネットJ 理事/ウエットランドフォーラム/日本クロツラヘラサギネットワーク〕）  
 6月14日 WGWチームミーティング  
 6月28日 「お茶会」を開催（話題提供「軍港予定で環境破壊懸念の浦添西海岸の現況」里道昭美さん〔浦添西海岸の未来を考える会〕）  
 7月26日 「お茶会」を開催（話題提供「サンゴの村・恩納村の保全の取り組みについて」當山真由美さん〔沖縄サンゴ保全協会〕/安部真理子さん〔日本自然保護協会/ラムネットJ 理事〕）  
 8月9日 WGWチームミーティング  
 8月24日 「お茶会」を開催（話題提供「島の未来に渡り鳥の集う干潟を残すには?!」西井弥生さん〔たましま 干潟と鳥の会 代表/ラムネットJ 理事〕）  
 12月13日 WGWチームミーティング  
 2024年

- 1月 湿地のグリーンウェイブ 2024、募集開始
- 1月24日 湿地のグリーンウェイブ オンライン「お茶会」を開催（話題提供「佐賀県鹿島市から発信!! 有明海の魅力と危機」中村さやかさん [鹿島市ラムサール条約推進室/元・日本野鳥の会レンジャー]）
- 1月17日 WGWチームミーティング
- 2月21日 WGWチームミーティング
- 3月13日 WGWチームミーティング
- 3月27日 湿地のグリーンウェイブ オンライン「お茶会」を開催（話題提供「湿地のグリーンウェイブ 2024 キックオフ パート 1」）

#### 4-5 国際協力事業

##### 4-5-1 WWN関係

2023年

- 4月19日 世界湿地ネットワーク・マネージメント委員会(World Wetland Network Management Committee) 以下「WWN-M」オンライン例会（以下同じ）
  - 5月18日 WWN-M例会
  - 6月21日 WWN-M例会
  - 7月26日 WWN-M例会
  - 8月23日 WWN-M例会
  - 9月19日 WWN-M例会
  - 10月10日 世界湿地ネットワークアジア地域代表会議（World Wetland Network Asia subregional Committee）以下「WWN-A」オンライン例会（以下同じ）
  - 10月17日 WWN-M例会
  - 11月14日 WWN-A例会
  - 11月21日 WWN-M例会
  - 12月12日 WWN-M例会
  - 12月19日 WWN-A例会
- 2024年
- 1月18日 WWN-M例会
  - 1月30日 WWN-A例会
  - 3月6日 WWN-M例会
  - 3月28日 WWN-A例会

##### 4-5-2 日韓湿地 NGO フォーカル(K-J Focal Point 会議)関係

11月20日 日韓湿地NGOフォーカル会議（以下「KJフォーカル」日韓湿地フォーラム準備）

2024年

2月2日 KJフォーカル（同上）

3月11日 KJフォーカル（同上）

#### 4-5-3 ラムサール COP14 決議翻訳打合せ

①4月2日、②4月7日、③4月10日、④4月16日、⑤4月23日、⑥4月29日、⑦4月30日、⑧5月9日、⑨5月10日、⑩5月16日、⑪5月23日、⑫5月24日、⑬5月30日、⑭5月31日、⑮6月2日、⑯6月4日、⑰6月8日、⑱6月11日、⑲6月12日、⑳6月13日、㉑6月20日（小林、堀チェック）、㉒6月23日（磯崎チェック）、㉓6月24日、㉔6月25日、㉕6月26日（小林チェック）、㉖6月27日（磯崎チェック）、㉗6月28日

#### 4-5-4 ラムサール条約湿地の指定とラムサール条約湿地情報票の更新（実務者のための手引き（ラムサール地域センター東アジア））の翻訳打合せ

①1月19日、②1月20日、③1月23日、④1月29日、⑤2月1日、⑥2月4日、⑦2月8日、⑧2月10日、⑨2月15日、⑩2月17日、⑪2月20日、⑫2月25日、⑬2月26日、⑭2月28日、⑮2月29日、⑯3月3日、⑰3月4日、⑱3月5日、⑲3月10日、⑳3月12日

#### 4-5-5 その他 [ ] 内は参加者

4月4日 IUCN 事務局長ラザン・アル・ムバラク会長訪日の際に懇談参加[安藤、永井]

5月11日 WATERPLAN オンライン会議

5月19日 渡良瀬プロジェクト オンライン会議

5月22日 渡良瀬プロジェクト オンライン会議

6月5日 渡良瀬プロジェクト オンライン会議

6月13日 渡良瀬プロジェクト オンライン会議

7月13日 WATERPLAN オンライン会議

8月31日 渡良瀬プロジェクト オンライン会議

9月26日 万博ファンド オンライン会議①

9月28日 万博ファンド オンライン会議②

10月8～10日 IUCN リーダーズフォーラム オンライン参加 [安藤]

2024年

3月27日 渡良瀬プロジェクト 現地懇談



#### 4-6 ネットワーク推進事業

2023 年

4 月 1 日～ 湿地ニュースの配信（ほぼ毎日）

4 月 1 日 ニュースレター51号発行

7 月 26 日 ニュースレター52号発行

10 月 25 日 ニュースレター53号発行

2024 年

1 月 24 日 ニュースレター54号発行

2 月 7 日 「ユースML会員」内規施行

通年 ウェブサイト更新作業（ソフトウェア変更・サーバー移行準備）

#### 4-7 その他の事業

特記事項なし

### 5. 事業の実施の状況(内容)

#### 5-1 調査研究事業

##### 5-1-1 シギ・チドリ部会

- ・ 部会としての情報交換の会議は行うことができず、たましま、吉野川河口、博多湾など各地域での活動が中心となった。
- ・ 岡山県の「たましま干潟と鳥の会」。埋立てが進行中の岡山県玉島干拓において、シギ・チドリ類の生息地を確保するため、地元で事業者・地域の人びとへの働きかけを行った。
- ・ 徳島県吉野川最河口部開発事業は、橋梁が完成した。事業のための環境影響評価（EIA）および期間中・期間後のモニタリングによって蓄積されたシギ・チドリ類データの保存・管理とアクセス・公開に関する意見書を事業者に提出した。
- ・ とくに、博多湾におけるシギ・チドリ類激減の状況を端緒に、国内の関係者に呼びかけ、ハマシギおよびシギ・チドリ類に関する現状把握と当面の対処について、情報交換を行った。

##### 5-1-2 玉島干拓の保護活動

- ・ たましま干潟と鳥の会が中心となって定期的観察を継続し、また広く市民に呼びかけ、干潟の底生生物や鳥類の観察会を行い、5 月には干潟再生の専門家を招いてシンポジウムを開催した。また、干拓地とそこにおける生物多様性回復に向けて継続してきた行政との対話を通して、計画・工事自体はなかなか変わらないが、コアジサシ営巣などへの理解・協力は進んできている。

### 5-1-3 吉野川プロジェクト

- ・ 吉野川は国内最大規模の汽水域と河口干潟を有する吉野川。約 20 年間にわたる河口域に係る複数の大型開発（2 本の渡河橋、人工海浜造成）は節目をむかえた。
- ・ 吉野川河口の調査データ（シギ・チドリ類、底生生物、地形変化等）が集積し公開されており、河口域が持つ継続した科学的データとしては全国でも屈指である。
- ・ 最河口の高速道路橋の環境モニタリング調査は、2023 年 5 月まで実施し、2024 年 3 月末で事業は終了した。2024 年 1 月末まで、「徳島南部自動車道 吉野川河口域に与える影響の総合評価報告書(案)」に対するパブリックコメントが募集された。柏木および地元のとくしま自然観察の会が意見を提出した。モニタリング調査のデータは、今後 5 年間、NEXCO 西日本の HP にてウェブサイトで公開され、広く利用できることが決定された。
- ・ 定期的に情報収集、現状把握しており、とくにシギ・チドリ類、シオマネキの生息状況に関して、地元の市民調査の結果と併せて、意見交換している。
- ・ また、吉野川河口の多様な価値を再確認し、さまざまな視点から考え、未来に引き継ぐ方法を見つけるために、2021 年から地元のとくしま自然観察の会との共催でオンライン講座『吉野川河口みらい講座』を開催し、YouTube 公開している。第 4 回「徳島の海とさかなと漁業」（11 月 18 日）および第 5 回「徳島の海、近年の大きな変化」（11 月 23 日）は、上田幸男氏（海洋生物専門家）による連続講座を開いた。講師料は、とくしま自然観察の会による地元の助成金をあてた。

### 5-1-4 エコユース八代サポート・球磨川関係

- ・ 八代市・球磨川河口を中心に活動する「次世代のためにがんばる会」が育成してきた、高校生中心のエコユース八代（EYY）の湿地に関する世界のユースのグループ Youth Engaged in Wetlands との交流の支援を 2022 年度から行っているが、2023 年度はメンバーの学年が上がり、中心メンバーが代わり、準備のための打ち合わせ、オンライン会議の都合の問い合わせ等の通信は行ってきたが、実際の交流は実現できなかった。

### 5-1-5 モニタリングサイト 1000(MS1000)シギ・チドリ類調査

- ・ 環境省生物多様性センターのモニタリングサイト 1000（MS1000）<sup>1</sup>シギ・チドリ類調査の検討委員として柏木が参加。2023 年度検討会においては、2023 年度の 3 シーズンの調査の分析と、MS1000 モニタリング開始からの 20 年間のまとめに向

---

<sup>1</sup> モニタリングサイト 1000：環境省生物多様性センターが主催する国内 1,000 か所の 100 年継続を目指すさまざまな生態系調査。シギ・チドリ類は干潟生態系の指標に関する調査で、1970 年代以来 NGO、地域鳥類観察者などによる調査を引き継いで実施されている。

けた検討を行った。

## 5-1-6 EAAFP 及び渡り性水鳥保全関係

### 5-1-6-1 EAAFP 国内連絡会・EAAFP モニタリング検討会

- ・ 環境省野生生物課による EAAFP<sup>2</sup>および二国間渡り鳥条約・協定に関連して、標記の会議が 2023 年度も行われ、柏木がシギ・チドリ類に関する専門家として参加した。

### 5-1-6-2 ハマシギ専門家会議

- ・ 日本および東アジアのフライウェイにおける優占種のハマシギを指標種として保全に取り組むことで、シギ・チドリ類全体の減少に対処する端緒をつかむとして、環境省は 2019 年から国内の専門家会議を開催してきた。この間の議論から、開発・保全担当者を対象としたハマシギ保全と回復のための提言の草稿をまとめた。環境省は今後も専門家とともに保全の取り組みを継続する方向を確認した。

### 5-1-6-3 ヘラシギ特別委員会

- ・ 1 月中旬からヘラシギが越冬する中国広東省南西部での調査の後、同省深圳においてヘラシギ保全戦略改定の最終案策定に向けた話し合いを行った。柏木は会議のみ参加できた。議長であった故シロエチコフスキー博士の後、中国・マングローブ保全基金の孫莉莉氏を経て、事務局長のクリストフ・ツェックラー博士が議長に就任、若い世代への移行が 進行中である。

## 5-2 保全・再生事業

### 5-2-1 保全再生事業

#### 5-2-1-1 沖縄・開発問題部会

##### 1) 大浦川河口の鳥獣保護区指定をめざして

沖縄県で鳥獣保護区設置の進捗が確認できているはずだが、進捗状況を確認できてない。

##### 2) 泡瀬干潟に保護の網をかける

活動はできなかった。

---

<sup>2</sup> EAAFP：東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ。アラスカからオーストラリア、ニュージーランドに及ぶ水鳥の渡り経路（フライウェイ）の鳥類と生息地の保全のための、関係国政府・国際機関・国際 NGO・私企業による枠組み。2 年ごとにパートナー会議を開き、重要生息地をフライウェイ・ネットワーク・サイト（FNS）として生息地のネットワークで保全を推進している。日本ではパートナーシップ成立前の水鳥分布に従い、ガンカモ、ツル・コウノトリ、シギ・チドリ類の種群ごとに運営されている。

3) 開発による湿地破壊問題を抱える地域の洗い出し（短期計画案より）

未着手であった。

4) 各地の開発問題について、意見書ほか必要に応じた支援活動

上記年表参照。とくに、岐阜県御嵩町の美佐野ハナノキ湿地群の保全を求める意見書提出では、何度も打ち合わせを行い、県および町の担当課と懇談し、岐阜県庁において記者会見も開催した。

#### 5-2-1-2 水田部会

田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト（田んぼ 2030 プロジェクト）

水田を豊かな湿地生態系として未来に受け継ぎ、生物多様性国際目標に寄与することを目的とする。2020 年まで行ってきた「田んぼの生物多様性向上 10 年計画」の後継プロジェクトとして 2021 年に発足し、2022 年は国際目標との関係性の整理や国内外への発信を行った。事業は地球環境基金の助成により実施した。

1) 実行計画ワークショップ

- ・ 8 月 18 日・19 日に宮城県大崎市において、水田部会メンバーにより水田の生物・文化多様性の現地視察と実行計画ワークショップを開催し、水田目標 2030 と昆明・モンテリオール生物多様性枠組との関係性、今後の水田の生物多様性保全に大きな影響を与えると考えられる、温室効果ガス対策、水田の構造・農法・管理におけるネイチャー・ポジティブについて検討を行った。また、8 月 28 日には OECM と水田についてオンライン・ワークショップを開催した。昆明・モンテリオール生物多様性枠組については、精力的にレクチャーを開いている IUCN-J の道家哲平氏の指導を得た。2024 年 1 月 26 日には最近の動きを考慮に入れて検討を行うためオンライン会議を開催し素案を検討したが、完成までには至らなかった。

2) ミニフォーラム（オンライン）を 3 回開催

- ・ 9 月 22 日に第 4 回ミニフォーラム「田んぼの OECM/自然共生サイトへの登録~その可能性と課題~」を、蒲地紀幸氏（環境省自然環境局自然環境計画課）と館野廣幸氏（民間稲作研究所理事長）を講師とし開催し、約 50 名が参加した。
- ・ 第 5 回ミニフォーラム「生物多様性を向上させる農法~大規模調査の成果報告と、農業の現場での生物多様性の向上を考える」は 12 月 15 日に、片山直樹氏（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構研究員）を講師として、水田における生物多様性保全事業の効果をテーマに開催し、約 50 名が参加した。
- ・ 第 6 回ミニフォーラム「生物多様性を向上させる農法を学ぶ~不耕起栽培~」は、2024 年 2 月 28 日に金子信博氏（福島大学教授）を講師として開催し、約 80 名が参加した。

3) 地域交流会

- ・ 2023 年 10 月 28 日に徳島県小松島市、コープ自然派、JA 東とくしまと共同で、田

んぼ 2030 プロジェクトの普及と ICEBA<sup>3</sup>との連携を図るため交流会を開催した。小松島市での田んぼの生物多様性保全の実績を中心に、岸健二氏（コープ自然派事業連合代表理事）、西田聖氏（JA 東とくしま 参 与）らによる基調講演ほかを開催した。

4) 水閘管理実験

- ・ 管理技術としての水田の水抜き栓（水閘）の管理について、7月26日に宮城県登米市の伊豆沼サンクチュアリセンター迫館にて、協力農家8軒の参加を得て説明会を行った。その後、水田の水抜き栓管理や生きもの等についてのアンケートにより現況を把握した。12月22日・23日には、協力農家の水田に穴を掘って地下水位測定用のパイプを設置した。

5) 第6回 ICEBA 佐渡市

- ・ 2023年11月18日・19日に「新・生物多様性農業」をテーマとして佐渡市で開催された第6回 ICEBA には運営協力として企画から参加し、第1分科会「生物の多様性を育む農業のすすめ」の座長を呉地正行、副座長を船橋玲二が務めた。展示場においてはポスター展示を行った。

6) その他 依頼講演等

- ・ 他団体との協力行事として、呉地が1月18日にグリーン連合・棚田の生物多様性勉強会（オンライン）にて「日本の水田と生物多様性～国内外の最新動向と日本の政策の課題」を、2月11日に「オーガニック・エコフェスタ 2024in 徳島」にて「ICEBA7 小松島市開催に向けてー若者たちと生物多様性を考えるワークショップ」（対面）にて講演した。

7) ニュースレター『田んぼ 2030 だより』を3回発行した。

- ・ 第4号：10月12日に佐賀の「シギの恩返し米」ほかの紹介記事を掲載した。
- ・ 第5号：12月26日に小松島市の地域交流会および佐渡市の第6回 ICEBA の報告を掲載した。
- ・ 第6号：3月19日に第5回ミニフォーラムの報告や東山の森の田んぼの一年（なごや東山の森づくりの会）の活動報告を掲載した。

8) メールマガジンを4回（4月4日、7月28日、10月1日、3月31日）発行した。

9) 水田決議円卓準備会を第95回から第100回までの6回開催し、水田での生物多様

---

<sup>3</sup> 生物の多様性を育む農業国際会議（International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture : ICEBA）：圃場における生き物の豊かさを重視し、多様な生き物の力によって除草や害虫防除を図る技術開発を目指し、これを「生物の多様性を育む農業」と呼び、さらなる技術開発、普及啓発を目的とした国際会議。田んぼと生物多様性に関心がある自治地・農家・市民など国内外の関係者が議論、情報交換を行う。2010年に第1回を兵庫県豊岡市で開催したあと、第2回を2012年に新潟県佐渡市、第3回を2014年に宮城県大崎市、第4回を2016年に栃木県小山市、第5回を2018年に千葉県いすみ市で、第6回を2023年に佐渡市で開催した。

性保全についての施策やラムサール条約関連の情報・意見交換を行った。第 100 回水田決議円卓準備会終了後に第 100 回開催を記念して、環境省農林水産省、国土交通省の担当者に加え、パタゴニア、伊豆沼農産といった協力者も参加して懇親会を行った。

- 10) 水田部会を第 113 回から第 124 回までと、臨時部会 1 回の合計 12 回開催し事業進行の調整等を行った。

#### 5-2-1-3 球磨川プロジェクト

- ・ 本年度はとくに動きはなかった。

#### 5-2-1-4 久米島プロジェクト

- ・ 清流ラムサールサイトのワイズユースを推進すると同時に、かつての棚田の風景を取り戻し、サンゴ礁に影響を及ぼしているサトウキビ畑から流出する赤土の沈殿池としての機能を取り戻すという長期展望に基づく計画の 2 年目。久米島観光協会のキーパーソンが転職、沖縄本島に移転してしまったために拠点を失ったが、ホテル館を中心とした島の知り合いに広がりが出てきた。
- ・ 7 月上旬にまとめて、環境 DNA 調査、生き物調査、赤土調査の 3 つを計画したが大型台風直撃ですべて中止になってしまい仕切り直した。
- ・ 地元のキーパーソンを中心として、観光協会、漁業組合等と協力して、①赤土調査の実施(1 月 14 日)、②リーフチェックリーダー養成講座の実施(6 月 12~14 日)、③ホテル館と連携して周辺での生きもの調査(11 月 3 日)、④田んぼの復元(11 月 4 日)、⑤水中撮影(リーフチェックと同時撮影)、⑥環境 DNA 調査(8 月 20 日)、⑦成果報告会(2024 年 2 月 23 日)を実施した。
- ・ 高校生による聞き書きは実施することができなかった。

#### 5-2-1-5 渡良瀬プロジェクト

- ・ 渡良瀬遊水地のコウノトリを育む環境を整えるための 3 年間プロジェクトの 1 年目。プロジェクトは 3 つの柱から成る(①コウノトリの生息地の環境保全・管理、②地元農家との協力連携、③CEPA・湿地教育)。
- 1) 学習フィールドの環境整備のための草刈機械のデモンストレーションを何回か実施し、最も使いやすい機種を選定した。
  - 2) 小山市農政課、自然共生化と連携して、地元の農家・土地改良区との会合を重ね、数件の協力農家を絞り込むことができた。水揚げポンプについては、電力の価格高騰が問題となったため、自然再生エネルギーによる水揚げポンプの検討を進める方向性が決まった。
  - 3) 渡良瀬トキ・コウノトリ定着推進協議会が中心となって、ハンドブックの制作委員

会を複数回開催し、ほぼ下書きは完成した。

### 5-3 政策提言事業

#### 5-3-1 国際条約・国際会議における活動

##### 5-3-1-1 WWNとの連携

- ・ ラムサール条約 COP15（ジンバブエ）に向けての活動を検討（「自然な水の流れ」普及啓発活動、COP15 国別報告書 section 4 記載の呼びかけ）。
- ・ 「World Wetland Survey」への協力(アンケート項目の邦訳、ウェブサイト掲載、ニュースレターで配布、KWNN にも呼び掛け)。

#### 5-3-2 国内の政策提言

##### 1) 国別報告書 section 4 プロジェクト

- ・ 10月24日、30日、11月27日

##### 2) 農林水産省・環境省・国土交通省との意見交換

- ・ 水田決議円卓準備会（第95回から第100回）において水田決議に基づく施策内容について情報および意見の交換を行った。

##### 3) 食料・農業・農村基本法改訂への働きかけ

- ・ 「生物多様性と農業政策研究会」（構成団体：オリザネット／日本自然保護協会／WWF ジャパン／日本野鳥の会／ラムサール・ネットワーク日本）の一員として、7月18日に「『生物多様性』と『食料・農業・農村基本法』」の意見交換会を開催した。

### 5-4 普及・啓発事業

#### 5-4-1 湿地のグリーンウェイ(WGW)

##### 1) キャンペーン

- ・ 2023年4月～7月をキャンペーン期間として呼びかけ、全国18道府県31団体がエントリー。世界湿地概況、昆明・モンリオール生物多様性枠組み、ラムサール条約締約国会議でのラムネットJの活躍などをコラムとして掲載したA5判フルカラー16ページのパンフレットを作成し、各地の関係団体などに配布した。またウェブサイトでは登録されたイベント情報だけでなく各団体や湿地の情報も合わせて紹介し、イベント終了後に提出された報告も掲載した。
- ・ 2023年度は、キャンペーン開始時にオンラインで「湿地のグリーンウェイ2023 キックオフミーティング～地域の湿地が地球を救う～」を実施、記録動画をYouTubeにて公開した。
- ・ 本年のキャンペーンは、世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)／日本野鳥の会／日本自然保護協会(NACS-J)／日本国際湿地保全連合(WIJ)／国際自然保

護連合（IUCN）日本委員会の後援を受けて実施した。

- ・ 11月以降はWGW2024の準備を行い、2024年1月から参加団体の募集を行った。
- 2) お茶会
- ・ キャンペーンとは別に、2020年度からスタートした「湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会」を6回開催し、各地のみなさんとさまざまなテーマについての交流を行った。
- 3) SNS
- ・ 広報活動の一環として、2019年からFacebookの公開グループ「湿地のグリーンウェイブ」を設置し、イベント情報の共有や交流を行っている。グループ登録者は約200余名を数える。

## 5-5 国際協力事業

### 5-5-1 国際条約・国際会議における活動

- 1) 生物多様性条約への関わり
- ・ 2023年5月15日（月）12:00~13:00、GEOC（地球環境パートナーシッププラザ）にて、CBD事務局代理のデイビッド・クーパー氏との昆明モントリオール生物多様性枠組み実施に関する意見交換に参加した。
  - ・ 2023年10月15日（日）から19日（木）まで、ケニア・ナイロビのUNEP本部で開催された第25回SBSTTA（科学技術助言補助機関会合）にオンラインで参加した。
- 2) ラムサール条約への関わり
- ・ WWDに活動登録した（久米島/田んぼ2030プロジェクト）
  - ・ WWDのポスターを会員希望者に配布。
- 3) IUCN
- ・ WWCの決議17「水の自然な流れ」のフォローアップとして、6月15日にCOP14で行ったサイドイベント、事例集作成などをIUCNのWCC決議webページにアップした。

### 5-5-2 WWN(世界湿地ネットワーク)との関係

- ・ 運営委員会（Management Committee）にほぼ毎月参加した。定期的に各地からの情報交換、ラムサールCOP15に向け世界湿地調査への協力を行った。
- ・ アジア地域代表会議（Asia Sub Regional Committee）については2022年11月のCOP14後しばらく休会状態となり、10月から再開した。その後も、なかなか集まりが悪い状態だった。

### 5-5-3 翻訳プロジェクト



- ・ 環境省からの委託を受け、ラムサール COP14 決議の翻訳（4月から6月）、ラムサール条約湿地登録や情報票改訂の手引きの翻訳（2024年1月から3月）を行った。

#### 5-5-4 日韓NGO湿地フォーラム

- ・ 第18回日韓NGO湿地フォーラムは、韓国主催で2024年度に入った4月13日に環境影響評価をテーマにオンライン開催された（来期報告）。

#### 5-5-5 その他

- ・ IUCN 事務局長ラザン・アル・ムバラク会長訪日の際に懇談参加（2023年4月4日）[安藤、永井]
- ・ 第2回 IUCN リーダーズフォーラム（ジュネーブ）にオンラインで参加。（10月11日～13日）[安藤]

### 5-6 ネットワーク推進事業

#### 5-6-1 ニュースレター

- ・ 2022年度はニュースレターを4回発行した（51号～54号）

##### ■第51号（2023年4月1日発行）

諫早湾干拓・請求異議訴訟で最高裁が漁業者の上告を門前払い！（菅波完）  
『世界湿地概況 2021 特別版』を活用しよう（永井光弘）  
山口湾のラムサール条約登録を目指して（原田量介）  
湿地巡り：霧多布湿原〔北海道〕（島崎楽）  
風力発電が鳥類に与える影響とその配慮（浦達也） ほか

##### ■第52号（2023年7月26日発行）

ラムサール条約湿地「出水ツルの越冬地」と湿地自治体認証（原口優子）  
ハナノキ湿地群とリニア残土問題（籠橋まゆみ）  
たましまの未来に渡り鳥の集う干潟を残したい!!（西井弥生）  
ラムサール条約で水田関連の決議に貢献したレベッカ・ドゥクルーズさん死去  
報告：第17回日韓NGO湿地フォーラム（永井光弘） ほか

##### ■第53号（2023年10月25日発行）

北海道東部の無名湿原を歩く（齋藤央）  
育み守ってきた谷津田を次世代につなげていくには（小西由希子）  
意見書「美佐野ハナノキ湿地群の保全を求める」を提出（陣内隆之）  
湿地巡り：大阪南港野鳥園〔大阪府〕（和田太一）  
「渡良瀬プロジェクト」始動します（後藤尚味） ほか

##### ■第54号（2024年1月24日発行）

コウノトリがやってきたことからはじまった地域の変化（森紗綾香）

吉野川河口を未来に引き継ぐために（井口利枝子）

2月2日は「世界湿地の日」

湿地巡り：重富海岸〔鹿児島県〕（浜本麦）

#### 5-6-2 湿地ニュースの配信

- ・ 2022年1月より一週間ごとに当番制で実施する体制に変更し、継続中。ほぼ毎日配信。

#### 5-6-3 ウェブサイト/SNS

- ・ ウェブサイトのソフトウェア変更・サーバーの移行の準備をした。
- ・ ウェブサイトでは例年同様、各種活動の情報を発信した。SNSでも「湿地ニュース」を中心に情報を流した。

#### 5-6-4 パンフレット類

- ・ 団体紹介のパンフレットや入会案内のリーフレットの作成を計画していたが、発行には至らなかった。

#### 5-6-5 ユースML会員

- ・ ラムネットJの活動をユース層に広げることを目的として、「ユースML会員」を設置した。

#### 5-7 その他の事業

- ・ 「短期計画（2021-2024）」の実施中。

# 決 算 報 告 書

## 第 15期

自 2023年 4月 1日

至 2024年 3月31日

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

東京都台東区台東1-12-11  
青木ビル3F

# 活動計算書

【税込】(単位：円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

	特定非営利活動に 係る事業	その他の事業	合計
<b>【経常収益】</b>			
<b>【受取会費】</b>			
受取会費	937,000		937,000
<b>【受取寄付金】</b>			
受取企業協賛金	500,000		500,000
受取寄付金	8,972,482		8,972,482
<b>【受取助成金等】</b>			
受取助成金	4,323,522		4,323,522
<b>【事業収益】</b>			
受託事業収益	1,893,000		1,893,000
<b>【その他収益】</b>			
受取 利息	133		133
為替 差益	4,306,000		4,306,000
経常収益 計	20,932,137	0	20,932,137
<b>【経常費用】</b>			
<b>【事業費】</b>			
(人件費)			
臨時雇賃金(事業)	354,100		354,100
人件費計	354,100	0	354,100
(その他経費)			
業務委託費(事業)	1,624,120		1,624,120
諸 謝 金(事業)	1,946,200		1,946,200
印刷製本費(事業)	178,934		178,934
会 議 費(事業)	19,514		19,514
旅費交通費(事業)	2,727,262		2,727,262
通信運搬費(事業)	248,877		248,877
消耗品 費(事業)	54,924		54,924
賃 借 料(事業)	348,507		348,507
保 険 料(事業)	8,470		8,470
諸 会 費(事業)	118,839		118,839
研 修 費(事業)	6,000		6,000
新聞図書費(事業)	8,000		8,000
接待交際費(事業)	9,133		9,133
支払手数料(事業)	71,790		71,790
その他経費計	7,370,570	0	7,370,570
事業費 計	7,724,670	0	7,724,670
<b>【管理費】</b>			
(人件費)			
アルバイト給料(管理)	160,576		160,576
福利厚生費	10,000		10,000
人件費計	170,576	0	170,576
(その他経費)			
事務委託費(管理)	785,880		785,880
印刷製本費(管理)	65,281		65,281
旅費交通費(管理)	281,462		281,462
通信運搬費(管理)	123,616		123,616
消耗品 費(管理)	30,849		30,849
水道光熱費	36,000		36,000
地代 家賃	312,000		312,000
賃 借 料(管理)	8,000		8,000
接待交際費(管理)	16,500		16,500
租税 公課(管理)	600		600
支払手数料(管理)	23,040		23,040
その他経費計	1,683,228	0	1,683,228
管理費 計	1,853,804	0	1,853,804
経常費用 計	9,578,474	0	9,578,474
当期経常増減額	11,353,663	0	11,353,663
<b>【経常外収益】</b>			
過年度損益修正益	113,821		113,821
経常外収益 計	113,821	0	113,821
<b>【経常外費用】</b>			
過年度損益修正損	22,548		22,548
経常外費用 計	22,548	0	22,548
税引前当期正味財産増減額	11,444,936	0	11,444,936
当期正味財産増減額	11,444,936	0	11,444,936
前期繰越正味財産額	3,633,866	0	3,633,866
次期繰越正味財産額	15,078,802	0	15,078,802

## 貸借対照表

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
2024年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未 払 金	1,112,110
現 金	71,962	預 り 金	23,826,034
普通 預金	37,818,350	流動負債 計	24,938,144
現金・預金 計	37,890,312	<b>負債合計</b>	<b>24,938,144</b>
(売上債権)		<b>正 味 財 産 の 部</b>	
未 収 金	1,114,634	<b>【正味財産】</b>	
未収助成金	1,012,000	前期繰越正味財産額	3,633,866
売上債権 計	2,126,634	当期正味財産増減額	11,444,936
流動資産合計	40,016,946	正味財産 計	15,078,802
		<b>正味財産合計</b>	<b>15,078,802</b>
<b>資産合計</b>	<b>40,016,946</b>	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>40,016,946</b>

## 財務諸表の注記

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

2024年 3月31日 現在

### 【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

### 【事業費の内訳】

事業費の区分は次の通りです。

(1/3)

[税込] (単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業				
	シギチドリB	沖縄開発問題B	田んぼ(基金)	田んぼ(協賛)	久米島P
(人件費)					
臨時雇賃金(事業)			354,100		
人件費計	0	0	354,100	0	0
(その他経費)					
業務委託費(事業)			276,120		286,000
諸謝金(事業)			527,000		
印刷製本費(事業)			100,394		21,720
会議費(事業)				4,970	14,544
旅費交通費(事業)	145,375	22,600	971,181	4,078	1,282,618
通信運搬費(事業)		1,072	134,677		33,598
消耗品費(事業)			25,684		22,752
賃借料(事業)			52,200		296,307
保険料(事業)					8,470
諸会費(事業)					12,000
研修費(事業)	2,000				4,000
新聞図書費(事業)			8,000		
接待交際費(事業)					9,133
支払手数料(事業)	330	165	7,920	165	28,410
その他経費計	147,705	23,837	2,103,176	9,213	2,019,552
合計	147,705	23,837	2,457,276	9,213	2,019,552

(2/3)

[税込] (単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業				
	渡良瀬P	国際条約・会誌	湿地のGW	翻訳P	KJF・WWN
(人件費)					
臨時雇賃金(事業)					
人件費計	0	0	0	0	0
(その他経費)					
業務委託費(事業)	1,062,000				
諸謝金(事業)				1,344,200	
印刷製本費(事業)			1,500		
会議費(事業)					
旅費交通費(事業)	127,576	166,154			
通信運搬費(事業)					
消耗品費(事業)			1,940	4,548	
賃借料(事業)					
保険料(事業)					
諸会費(事業)					
研修費(事業)					
新聞図書費(事業)					
接待交際費(事業)					
支払手数料(事業)	1,830	165		1,320	30,165
その他経費計	1,191,406	166,319	3,440	1,350,068	30,165
合計	1,191,406	166,319	3,440	1,350,068	30,165

(3/3)

[税込] (単位: 円)

科目	特定非営利活動に係る事業				合計
	その他	国際	ニューズレター	IUCN会員	
(人件費)					
臨時雇賃金(事業)					354,100
人件費計	0	0	0	0	354,100
(その他経費)					
業務委託費(事業)					1,624,120
諸謝金(事業)	50,000		25,000		1,946,200
印刷製本費(事業)			55,320		178,934
会議費(事業)					19,514
旅費交通費(事業)	7,680				2,727,262
通信運搬費(事業)			79,530		248,877
消耗品費(事業)					54,924
賃借料(事業)					348,507
保険料(事業)					8,470
諸会費(事業)				86,839	118,839
研修費(事業)					20,000
新聞図書費(事業)					6,000
接待交際費(事業)					8,000
支払手数料(事業)	165		825	165	9,133
支払手数料(事業)					71,790
その他経費計	57,845		160,675	87,004	20,165
合計	57,845		160,675	87,004	20,165
					7,724,670

## 【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	金額	算定方法
堀良一専門家謝金寄付	35,400	専門家謝金1回17,700円×2回分
永井光弘翻訳謝金寄付	28,000	永井担当翻訳謝金分
	63,400	

※令和5年10月1日から東京都最低賃金が1,113円に対し、地球環境基金のアルバイト賃金が1200円となったため、ボランティア役務としてつける差分額はなくなった。

## 【使途等が制約された寄付等の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
RNJ 渡良瀬P (2023FY)	0	2,900,000	1,191,406	1,708,594	
RNJ 渡良瀬P (2024FY)	0	2,900,000	0	2,900,000	
RNJ 渡良瀬P (2025FY)	0	2,900,000	0	2,900,000	
渡良瀬協議会 (2023FY)	0	3,768,000	370,045	3,397,955	
渡良瀬協議会 (2024FY)	0	13,436,000	0	13,436,000	
渡良瀬協議会 (2025FY)	0	6,936,000	0	6,936,000	
合計		32,840,000	1,561,451	31,278,549	

## 【役員及びその近親者との取引の内容】

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

[税込] (単位: 円)

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配人等との取引
(活動計算書)			
事務管理費(管理)	785,880	0	785,880
業務委託費(事業)	1,624,120	0	1,338,120
諸謝金(事業)	1,946,200	725,400	633,000
臨時雇用賃金(事業)	354,100	210,700	0
印刷製本費(事業)	178,934	0	113,820
活動計算書計	4,889,234	936,100	2,870,820

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】

# 財 産 目 録

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本  
全事業所

[税込] (単位:円)  
2024年 3月31日 現在

## 《資産の部》

### 【流動資産】

(現金・預金)

現 金	71,962
普通 預金	37,818,350
郵便口座	(361,362)
みずほ銀行	(5,991)
三菱UFJ銀行	(37,261,371)
りそな銀行	(189,626)
現金・預金 計	<u>37,890,312</u>

(売上債権)

未 収 金	1,114,634
Paypal	(74,112)
MOE	(970,000)
若者IUCNJ	(△ 45,096)
Syncable	(115,618)
未収助成金	1,012,000
地球環境基金	(1,012,000)
売上債権 計	<u>2,126,634</u>

流動資産合計

40,016,946

資産の部 合計

40,016,946

## 《負債の部》

### 【流動負債】

未 払 金	1,112,110
シグナレス	(361,500)
柏木実	(3,388)
呉地正行	(20,040)
後藤尚味	(100,835)
G's Green Lab	(135,000)
原野好正	(1,940)
永井光弘	(309,982)
JCB法人カード	(25,425)
渡良瀬協議会	(154,000)
預 り 金	23,826,034
所得税	(45,636)
賃金所得税	(10,443)
渡良瀬協議会	(23,769,955)
流動負債 計	<u>24,938,144</u>

流動負債 計

24,938,144

負債の部 合計

24,938,144

正味財産

15,078,802



## 特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

【税込】(単位:円)

全事業所

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

<b>【経常収益】</b>		
<b>【受取会費】</b>		
受取会費	937,000	
<b>【受取寄付金】</b>		
受取企業協賛金	500,000	
受取寄付金	8,972,482	
<b>【受取助成金等】</b>		
受取助成金	4,323,522	
<b>【事業収益】</b>		
受託事業収益	1,893,000	
<b>【その他収益】</b>		
受取利息	133	
為替差益	4,306,000	
<b>経常収益計</b>	20,932,137	
<b>【経常費用】</b>		
<b>【事業費】</b>		
(人件費)		
臨時雇賃金(事業)	354,100	
人件費計	354,100	
(その他経費)		
業務委託費(事業)	1,624,120	
諸謝金(事業)	1,946,200	
印刷製本費(事業)	178,934	
会議費(事業)	19,514	
旅費交通費(事業)	2,727,262	
通信運搬費(事業)	248,877	
消耗品費(事業)	54,924	
賃借料(事業)	348,507	
保険料(事業)	8,470	
諸会費(事業)	118,839	
研修費(事業)	6,000	
新聞図書費(事業)	8,000	
接待交際費(事業)	9,133	
支払手数料(事業)	71,790	
<b>その他経費計</b>	7,370,570	
<b>事業費計</b>	7,724,670	
<b>【管理費】</b>		
(人件費)		
アルバイト給料(管理)	160,576	
福利厚生費	10,000	
人件費計	170,576	
(その他経費)		
事務委託費(管理)	785,880	
印刷製本費(管理)	65,281	
旅費交通費(管理)	281,462	
通信運搬費(管理)	123,616	
消耗品費(管理)	30,849	
水道光熱費	36,000	
地代家賃	312,000	
賃借料(管理)	8,000	
接待交際費(管理)	16,500	
租税公課(管理)	600	
支払手数料(管理)	23,040	
<b>その他経費計</b>	1,683,228	
<b>管理費計</b>	1,853,804	
<b>経常費用計</b>	9,578,474	
<b>当期経常増減額</b>	11,353,663	
<b>【経常外収益】</b>		
過年度損益修正益	113,821	
<b>経常外収益計</b>	113,821	
<b>【経常外費用】</b>		
過年度損益修正損	22,548	
<b>経常外費用計</b>	22,548	
<b>税引前当期正味財産増減額</b>	11,444,936	
当期正味財産増減額	11,444,936	
前期繰越正味財産額	3,633,866	
<b>次期繰越正味財産額</b>	15,078,802	

ラムサール・ネットワーク日本 短期計画2021-2024 (3年目)

20240604作成

行動計画 2021-30 目標1~3					達成度チェック2023年度末 (計画3年目)	備考	評価(小括)
組織の運営： 湿地保全・再生の目標を達成するため、効果的で持続可能な組織をつくり維持する。							
目標	行動	結果	指標	達成期限			
1 ネットワークの参加者を増やし運営を充実	リストを作成し、担当者を決めて働きかけ、活動方法を協議する。	登録湿地及び潜在的候補地のNGOその他から多くの参加が得られる。	リストの作成、担当者の決定	2021年度末 毎年度確認	リスト作成、未了 担当者の割り当て、未了		昨年度に引き続き未達成。 活動の根本であり、2024年度でも早期かつ計画的に対応する必要。 本年度は必ず達成を。
2 運営資金と人材を確保	運営資金獲得、事務職員採用の基盤作成	会費、補助金、寄付金の増加。活動会員の増加、事務職員の雇用	会員400人、寄付金300万円	2024年度末	236名(正▲1、讀+3、讀団+1) 寄付金1377万円	会員は微増。 GOOGLEが大きい。	会員微増は大きな成果。 ただ、更に組織的な勧誘活動の必要。 海外助成金にも注力。
3 ネットワーク内のコミュニケーション手法の充実	ML, WEB, NLは継続して検討。広報資料の作成	ML,ウェブサイト、ニュースレターの充実。広報資料の作成。	広報資料の作成	2021年度末 毎年度確認	ニュースレター発行。 湿地ニュース毎日。 広報資料、未作成	紙媒体の有用性について、再検討する。	企業等へのアプローチ方法、検討(パンフのみか?)

行動計画 2021-30 目標4~5					達成度チェック2022年度末 (計画2年目)	備考	評価(小括)
地域との連携： 日本各地の湿地にかかわるNGOと連携し、協議の上その諸活動を支援する。							
目標	行動	結果	指標	達成期限			
4 各地の湿地にかかわるNGOとの連携強化	緊急の問題を抱える地域、登録や湿地再生等に取組む地域を認識する。	登録湿地及び潜在的候補地のNGO等から多くの参加が得られる	リストの作成	2021年度末 毎年度確認	リスト作成、未了	今年度は、美佐野、新潟、沖縄から連絡あり。 フォローしていく。	本年度も未達成 担当者は作成を進める。 連絡のあった地域や団体をきちんとフォローし、その他も掘り起こしを進める。
5 各地のNGOの支援	政策提言、意見・声明の発表。登録の支援活動	各地NGOの課題につき適切な形で支援を行う。	登録の支援5件 意見・声明20本	2024年度末	支援4： 玉島、球磨川、吉野川、ハナノキ湿地群 意見・声明 2	美佐野ハナノキはRNJ単独の意見書 意見声明2022/8本 2023/0本	支援の仕方検討。 登録までいくのはかなり難しい。 主唱する意見書の増加が課題。

行動計画 2021-30 目標6~11					達成度チェック2022年度末 (計画2年目)	備考	評価(小括)
その他の連携： 湿地の保全・再生への効果的な活動のため、様々なセクターと連携する。							
目標	行動	結果	指標	達成期限			
6~8 国際的な連携	WWN(含アジア)と定期会合、日韓フォーラムの開催	WWN, IUCNと連携し、ラムサール条約、生物多様性条約など国際条約の考え方によって日本の湿地状況を改善する。	毎年1回の日韓フォーラム開催	2024年度末	2023. 4IUCN会長と面談 参考(次年度) 2024. 4にWWN COP15フォーラム、KJフォーラム(オンライン)	日韓フォーラム次期にずれ込	韓国と今後のKJフォーラムの持ち方、費用負担の協議は、2023年でもできなかった。
9~10 立法・行政との連携・提言	条約湿地登録を支援する。湿地に関する適時な意見や声明を公表。	登録を支援し、各湿地の実情に応じた意見や声明を公表する。	意見・声明7本	2021年度末 毎年度末確認	美佐野ハナノキ湿地意見書ほか1本 参考(次年度) 2024.5ラムサールSGと面談	美佐野ハナノキはRNJ単独の意見書 意見声明2022/8本 2023/0本	さらに積極的に意見や提言をする必要。 吉野川にも注力する。 国別報告書\$4の意見書化
11 第1次産業との連携	水田円卓会議への関与。漁業、林業への関わり方を検討。	農業、林業、漁業と湿地の関わりを確認、関係機関やNGOと交流する。	漁業、林業とのかわり調査	2021年度末 毎年度末確認	水田円卓会議6回開催 漁業林業の調査は未了		農業以外の一次産業との連携が引き続き課題。

行動計画 2021-30 目標12					達成度チェック2023年度末 (計画3年目)	備考	評価(小括)
一般の人々との連携：CEPAプログラムを活用し、多くの国民が湿地の価値を認知する。							
目 標	行 動	結 果	指 標	達成期限			
12 CEPAを活用した活動	総括と今後の行動方法を確認する (にじゅうまる後継、湿地グリーンウェブ)	ラムネットとしての活動方法が確認される	同左	2021年度末 毎年度末確認	にじゅうまる後継：議論の上参加方向。 WGW：毎月お茶会開催	ネイチャー2030イニシアティブ(仮称)はIUCN-Jの主催。	ネイチャー2030イニシアティブ(仮称)は次期に加入。
	「水の自然な流れ」実現に向けて、国内NW、日韓、WWN等のチャンネルを通じて事例収集、CEPA	IUCN決議17関連の活動として報告がされる。	IUCNへの報告 6本	2024年度末	IUCN-WEB上に報告を行った(6月) 美佐野ハナノキにつき取り組み	SWSの湿地の権利宣言との関係	IUCN-WEBで「水の自然な流れ」に関する活動を世界に発信したのは大きな成果。 湿地の権利宣言と協調探る
	ユースに向けたCEPAの強化。国内、国外でのユースに向け講演。RNJ活動への資金的補助、	若年層の参加が増加する。	講演等9回	2024年度末	ユース会員制度創設	さらにユースとの連携を進	組織の存続のためにもさらに力を入れる必要。

行動計画 2021-30 目標13～15					達成度チェック2023年度末 (計画3年目)	備考	評価(小括)
情報や知識の収集と公開：湿地政策や賢明な利用に関する情報を集積し、湿地保全・再生に関する独自の諸活動を行う。							
目 標	行 動	結 果	指 標	達成期限			
13 湿地政策に関する情報の集積	重要な英文文献を和訳し紹介、日本政府の湿地政策等をわかりやすく紹介。	ラムサール条約ウェブサイトその他の湿地に関する情報が適時に参加NGOに伝わる。	和訳は年10本、 政策紹介は年2本	2021年度末 毎年度末確認	COP14決議翻訳(7本)、RISマニュアル翻訳(1冊) (どちらもMoEより) 政策紹介：特にナ		自発的な翻訳もほしい。 政策紹介は意識して強化していく必要。
14 湿地の賢明な利用の情報の集積	国内外の取り組みを集積し、広報する。	国内各地NGOや各国NGO等の取り組みを集積し、参加NGOに伝える。	年に2回程度RNJ ニュースレター、 田んぼ便りで紹介	2021年度末 毎年度末確認	RNJニュースレター、 田んぼ便り、 水田円卓準備会議資料	湿地のグリーンウェブお茶会も本項に貢献している。	例年通りできている。
15 湿地の保全・再生に関する情報の集積	研究分野を決定し、予算を取り、調査研究。	RNJ独自に湿地に関する調査研究活動を行い、結果を公表する。	報告書の発表	2024年度末	なし	吉野川データの研究は候補	対象、予算、マンパワー確認。 次年度何らかの成果を。

未達成  
進行中  
達成



## 2024年度 事業計画(案)

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

### 1. 調査研究事業

#### 1-1 シギ・チドリ部会

- ・ 部会の運営主体を刷新する。部会をメンバーの想像力・行動力によって運営する体制への移行を目指す。部会独自のプロジェクトは行わず、地域の団体のプロジェクトの支援・連絡を行う。同時に、減少の著しいハマシギ・ヘラシギを含む国内外のシギ・チドリ類保全会合を含め、現地の訪問も視野に、ハマシギなどのシギ・チドリ類の保全を目指した交流・調査・CEPA活動を進める。
- 1) 岡山県玉島埋め立て地における生息地保全のための活動への協力。
- 2) 吉野川プロジェクトへのデータ解析を中心とした協力。
- 3) 球磨川プロジェクトへの協力。
- 4) 博多湾をはじめとするシギ・チドリ類の激減に対処するため、国内外のシギ・チドリ類関係者と連携する取り組みの継続。
- 5) 国内のヘラシギ観察データなどの管理体制・代表移行に向けた取組。

\* 予算：17万円

### 2. 保全・再生および政策提言事業

#### 《部会事業》

「沖縄・開発問題部会」を廃止し、「沖縄部会」および「開発問題部会」を新設する。

#### 2-1 沖縄部会(新設)

目的：沖縄地域の保全再生・地域づくり・普及啓発活動等を目的とする。

- 1) 久米島プロジェクトを協働する。
- 2) 泡瀬干潟（沖縄県）の保全再生に向けた普及啓発を行う。

#### 2-2 開発問題部会(新設)

目的：全国各地の開発による湿地破壊問題に対処し、草の根団体との連携・支援を通じた保全再生の実現を目的とする。

- 1) 大浦川河口（沖縄県）の鳥獣保護区指定をめざす活動。
  - 2) 開発による湿地破壊問題を抱える地域の洗い出し。
  - 3) 各地の開発問題について、意見書・要望書の提出など必要に応じた支援活動。
- ・ 「美佐野ハナノキ湿地群」（岐阜県御嵩町）の保護の支援。

- ・ 浦添西海岸（沖縄県）の保全の支援。
- ・ その他必要に応じた活動（沖縄県与那国島樽舞湿地など）。

\* 予算：20 万円

### 2-3 水田部会

目的：水田を豊かな湿地生態系として未来に受け継ぎ、昆明・モントリオール生物多様性枠組世界目標の達成に寄与することを目的として、田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト（略称：田んぼ 2030 プロジェクト）を展開する。

<国内での活動>

- 1) 2024 年秋に、田んぼ 2030 プロジェクト参加者の活動実績報告会を開催し、参加者相互に活動内容を評価する。
- 2) 2030 年へ向けた中間分析を行い、4 年日以降の行動計画を検討する。
- 3) 管理技術として水田の水抜き栓の管理の違いによる生きものの生息状況の変化調査を行う。2023 年度に実施した実証実験の結果を分析し、生物多様性を高める管理技術として水閘（水田の水抜き栓）の管理指針を作成する。また、各地の排水管理実践例や指針をとりまとめて、農家や市民向けの啓発パンフレットを作成する。
- 4) 年間 3 回程度のミニフォーラム（オンライン開催/参加者 50 名程度）による情報発信と意見交換会を実施する。また実施したフォーラムの報告書を作成する。
- 5) 第 7 回「生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）」開催予定の徳島県小松島市において、準備会議および田んぼの生きもの調査を開催する。
- 6) ニュースレター『田んぼ 2030 だより』を年に 3 回発行する。
- 7) メールマガジンを年に 6 回程度発行する。
- 8) ウェブサイトの更新を適宜行う。
- 9) メーリングリストによる会員相互の情報交換を行う。
- 10) 世界的に多い亜熱帯地域の水田生態系の保全・復元の実践情報を得る。そのために、南西諸島の久米島において地元の人を巻き込み、1a 程度の広さの水田を 2 か所復元する。
- 11) 水田決議円卓会議準備会（ラムネット J、環境省、農水省、国交省、NGO）を年 6 回程度開催する。
- 12) 水田部会を毎月開催する。
- 13) 国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）が展開するネイチャーポジティブ・イニシアティブ日本（仮称）において、昆明・モントリオール生物多様性枠組世界目標達成への活動と水田目標 2030 の実現とを連携する

<国際的な活動>

- 1) 海外で水田における生物多様性保全にとりくむ関係者と、生物の現況、施設や活動

内容について情報と意見を交換する。

- 2) 生物多様性条約 COP16（コロンビア・カリ/2024年10月）において、水田の生物多様性に関わる情報を収集するとともに、政府、その他機関と協力して生物多様性を育む水田等について情報発信を行う。
- 3) ラムサール条約アジア地域会合において、水田の生物多様性に関わる情報を収集するとともに、政府、その他機関と協力して生物多様性を育む水田等について情報発信を行う。
- 4) 水田の生物多様性に関わる国際会議の決議や付随資料、国内外の活動事例や指針等を有効活用するため、各種資料の英訳・邦訳を行う。
- 5) 日本が中心となって進めている国際活動「国際里山イニシアティブ(IPSI)」との連携の可能性について検討する。

\* 予算：580万円（地球環境基金助成 530万円／企業協賛金 50万円）

\* IUCN-J ネイチャーポジティブイニシアティブ日本関係予算 20万円（未定）

## 《地域プロジェクト事業》

### 2-4 球磨川プロジェクト

- 1) 球磨川河口のラムサール条約湿地登録を支援する。
  - ・ 現地団体支援を中心に、引き続き継続する。
  - ・ 「次世代のためにがんばろ会」の活動を支援。勉強会や体験型学習の講師派遣等。
  - ・ 球磨川 EAAFP 登録 20 周年記念行事に協力する。

\* 予算：15万円

### 2-5 久米島プロジェクト

- 1) 清流ラムサールサイトのワイズユースを推進すると同時に、かつての棚田の風景を取り戻し、サンゴ礁に影響を及ぼしているサトウキビ畑から流出する赤土の沈殿池としての機能を取り戻す長期展望に基づく計画の3年目となる。
- 2) 地元のキーパーソンを中心として、地元根付いて活動しているNPOや漁業組合等と協力して、①赤土調査の実施、②リーフチェック・リーダー養成の実施、③ホテル館と連携して田んぼの生きもの調査、④高校生による聞き書き、⑤水中撮影、⑥成果報告会を2025年3月までに実施する。

\* 予算：183万円（Patagonia CAF America 助成金 183万円）

### 2-6 吉野川プロジェクト

- 1) 20年間にわたって大型開発に晒されてきた吉野川河口域の今後の保全およびラムサール登録につなげるプロジェクトとして、4年目である。下記計画を実施するために現地視察を行う。

- ・ 吉野川河口域におけるモニタリング調査のデータを市民調査と情報整理し、市民調査と併せて考察を行う。とくに河口干潟周辺におけるシギ・チドリ類の利用状況、シオマネキ生息分布や底質変化など河口域の環境変化について注目し、市民モニタリング調査を支援する。
- ・ 吉野川河口は、「東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップにおけるシギ・チドリ類ネットワーク」に日本で最初に参加していることから、吉野川におけるシギ・チドリ類に関して国際的位置づけの考察を試みる。
- ・ 吉野川河口域のラムサール条約国際基準について、最河口の高速道路モニタリング調査データを加えて、考察を行う。
- ・ 吉野川河口の多様な価値を再確認し、さまざまな視点から未来に引き継ぐ方法を考えるために、地元のとくしま自然観察の会との共催でオンライン講座『吉野川河口みらい講座』を継続して開催する。2023 年度から実施を持ち越している、清野聡子先生による「海ごみから見つめなおす吉野川河口の川と海のつながりと私たちの暮らし」、「吉野川とラムサール条約」等を開催予定。

\* 予算：22 万円

## 2-7 渡良瀬プロジェクト

- 1) 渡良瀬遊水地の湿地保全とコウノトリ、トキの採餌場の確保と生物多様性向上の取り組みの 2 年目として、①遊水地の乾燥を防ぐ掘削、②観察学習のための除草、③農家の協力によるビオトープ作り、④井戸を掘って水の供給を確保、⑤冬水田んぼを導入する農家呼びかけ、⑥ブックレットを制作し、学校に配布・ビジターセンターへの設置などを行う。

\* 総予算：25 万 U S ドル / 3 年間 2024 年度予算：渡良瀬協議会分 (1,343 万円)  
ラムネット J 分 (290 万円)

※米国のコンサルタントの支援と企業協賛による 3 か年継続プロジェクトで、ラムネット J は、全体の進行管理と米国との窓口を担当し、現地の取り組みは、自治体と N G O を含む、「渡良瀬遊水地の協議会」が母体となって実施する。

## 3. 普及・啓発事業

### 3-1 湿地のグリーンウェイブ(WGW)

- 1) キャンペーン (4 月～7 月)
  - ・ パンフレットの作成・配布：湿地のグリーンウェイブ 2024 キャンペーン参加団体の紹介、およびコラム「世界湿地の日・湿地とは」「渡良瀬プロジェクト」「日韓 N G O 湿地フォーラム」「田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト」などを盛り込んだ A 5 判フルカラー 16 ページ版のパンフレットを作成・配布する。

- ・ 専用ウェブサイトでのイベント紹介：参加団体によるイベント情報や実施報告、フィールドとなっている湿地の紹介などを専用ウェブサイトに掲載する。
- ・ キックオフおよび報告イベントの実施：オンラインによる、湿地のグリーンウェイブ 2024 キックオフミーティングおよび報告会を実施する。

## 2) 広報と交流

- ・ キャンペーン参加団体専用のメーリングリストを設置して、情報の共有を図る。
- ・ Facebook の公開グループ「湿地のグリーンウェイブ」をはじめとする SNS の活用を図る。
- ・ ラムサール条約や湿地の保全・賢明な利用について各地で活動する人、関心を持っている人と直接交流する場として、「お茶会」をオンラインでほぼ毎月実施する。

## 3) そのほか

- ・ ラムネット J のウェブサイトのサーバー移行に伴い、湿地のグリーンウェイブ 2025 以降は WGW 専用サイトのリニューアルを行う。
- ・ WGW チームとして活動報告する新たなメンバーの募集を行いたい。
- ・ 次年度の活動資金確保のために、助成金獲得に努める。

\* 予算：20 万円（パンフレット印刷費：6 万円、送料：3 万円、ウェブサイト構築：10 万円、予備費：1 万円）

## 4. 国際協力事業

### 4-1 WWN、WWNアジア

- ・ 定期的にオンライン会議を実施する。とくにアジアの定例会議に力を入れる。

### 4-2 翻訳プロジェクト

- ・ 必要なラムサール条約関連文献の翻訳作業。国別報告書等。

\* 予算：90 万

### 4-3 日韓NGO湿地フォーラム

- ・ 毎年 12 月頃に開催している日韓 NGO 湿地フォーラムは、本年度は日本主催の年。テーマ・日本開催地について協議を進める。
- ・ 取り上げるテーマは韓国側との協議となるので、本年夏頃から K J フォーカル会議で詰めていく。
- ・ ラムネット J としては、国別報告書の任意項目（セクション 4）の報告を働きかけることを提案していきたい。
- ・ 現時点では未定だが、活動のために助成金の獲得をめざしたい。

\* 予算：200 万円



#### 4-4 エコユース八代の活動

- ・ 2024 年度も 2023 年度同様に、次世代のためにがんばろ会と協力して、エコユース八代（E Y Y / 高校生）への支援活動を継続する。
- ・ 支援内容は、イベント時の講師派遣と、定期的で開催している Y E W とのオンライン会議を通じた E Y Y メンバーの自立的活動に向けた支援である。

\* 予算：特になし（オンライン）

#### 4-5 その他の事業

- 1) 中国で開催予定の日中韓アジア湿地教育ネットワーク（RRC-EA）への関わり。  
\* 予算：なし
- 2) 新潟市で開催予定の RRC-EA 主催のサイト・マネージャー研修会への関わり。

### 5. ネットワーク推進事業

#### 5-1 ニュースレター

- ・ これまでと同様に、2024 年度も 4 回発行する（4 月、7 月、10 月、2025 年 1 月）。とくに今年はこれまでに紹介していないような湿地や団体の記事をなるべく多く掲載し、またそのような地域でのニュースレター配布（オンラインでの閲覧も含む）に取り組み、ラムネット J のネットワークの拡大を図る。とくに、リアル開催の会合などが増えてきたため、関連する会合で積極的に配布する。
- ・ 2022 年度まで、原稿執筆は無料で依頼してきたが、2023 年度より原稿料の支払いを行っている。具体的には大記事（1,600～1,700 文字）は 5,000 円、小・中記事に 3,000 円を支払う。

\* 予算：30 万円

#### 5-2 ウェブサイト等

- ・ ウェブサイトで使用している管理ソフト（MovableType）が古くなり、サポートも終了しているので、新しいソフト（WordPress）への移行を行う。2023 年から外部委託業者の協力を得ながら、ソフトの更新、サーバーの移行作業を準備してきたが、2024 年 4 月にソフトの更新・サーバーの移行を実施する。
- ・ WordPress の導入により、ウェブサイトの記事の更新は比較的容易になった。いままではウェブサイト担当者のみが更新作業を担っていたが、今後は複数の理事などが適宜更新をできるように、理事向け WordPress のレクチャーを実施する。
- ・ Facebook、X（旧 Twitter）も活用しながら、情報発信に努めたい。

\* 予算：20 万円

#### 5-3 湿地ニュースの配信

- ・ ほぼ毎日の湿地ニュースのメーリングリストでの配信を予定する。

- ・ メーリングリストで配信されたニュースを Facebook にも転載する。
- ・ 2024 年 4 月までは旧ウェブサイトにも転載していたが、リンク切れなどが発生するため、これは廃止する。

\* 予算：なし

#### 5-4 パンフレット類

- 1) ラムネット J 団体紹介パンフレット（企業向け）
  - ・ 企業、行政、他の NGO などにラムネット J に関するプレゼンテーションを行う際に使用する、組織や活動内容などを紹介したパンフレットを作成する。とくに企業協賛の拡大のために活用する。
- 2) ラムネット J 団体紹介リーフレット（個人向け）
  - ・ ラムネット J の組織、活動、入会案内などを簡潔に記載した、会員募集、カンパ募集のための小型リーフレットを作成し、会員拡大のために活用する。

\* 予算：10 万円

#### 5-5 ユースとの連携

- 1) 2023 年度に、ラムネット J の活動をユース層に広げることを目的として、「ユース ML 会員」を設置した。今後、この内規に従って、適宜、ユース層の登録を進める。
- 2) ユース層の会員獲得のために、ユース層と定期的に意見交換を図るシステムを構築する。

\* 予算：なし

#### 6. その他の事業

- 1) 「短期計画 2021-2024」を着実に実行する。
- 2) 今年度中に 2025 年 4 月～2028 年 3 月末までの次期 3 か年計画を作成する。

\* 予算：なし

**2022年度 収支予算(案)**  
自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

I. 経常収益

科目	2024年予算(A)	2023年予算(B)	比較(A-B)	2023年度決算	予算に関する説明
受取会費	1,200,000	1,200,000	0	937,000	
受取寄付金	3,600,000	1,000,000	2,600,000	9,472,482	JA全農30万円、MS&AD10万円、コープデリ10万円、グループ290万円、会員等寄付見込20万円
受取助成金等	7,330,000	37,400,000	-30,070,000	4,323,522	JFGE530万円、Patagonia183万円、IUCN-J20万円
事業収益	1,280,000	920,000	360,000	1,893,000	環境省からの翻訳見込み
その他収益	10,000	10,000	0	133	受取利息等
				4,306,000	為替差益は、2024年度は見込まれない
経常収益 計(a)	12,030,000	40,530,000		20,932,137	

II. 経常費用

1. 事業費					
(1)調査研究費	170,000	150,000	20,000	147,700	シギ子部会
(2)保全・再生事業	11,300,000	20,950,000	-9,650,000	5,867,603	開発問題、水田部会、IUCN-J、地域別プロジェクト
(3)普及・啓発事業	200,000	190,000	10,000	3,440	湿地のGW
(4)国際協力事業	2,900,000	920,000	1,980,000	1,438,078	国際会議、翻訳P、日韓F、その他国際事業
(5)ネットワーク推進事業	600,000	400,000	200,000	267,844	ニュースレター、WEB
(6)その他の事業	0	300,000	-300,000	0	
事業費 計	13,409,000	22,910,000	-9,501,000	7,724,670	
2. 管理費					
(人件費)					
賃金・福利厚生費	12,000	12,000	0	170,576	
人件費計					
(その他経費)					
事務委託費	1,250,000	1,250,000	0	785,880	
印刷製本費	20,000	20,000	0	65,281	
旅費交通費	70,000	70,000	0	281,462	
通信運搬費	100,000	100,000	0	123,616	
消耗品 費	150,000	150,000	0	30,849	
地代 家賃	453,660	350,000	103,660	348,000	事務所水道光熱費含む。7月から「若い難民を考える会」が退室するため家賃分担が上がる。
賃借料	5,000	5,000	0	8,000	
新聞図書費	5,000	5,000	0	0	
接待交際費	5,000	5,000	0	16,500	
諸 会 費	85,000	100,000	-15,000		
租税公課	5,000	5,000	0	600	
支払手数料	20,000	70,000	-50,000	23,040	
雑費	5,000	5,000	0	0	
管理費 計	2,185,660	2,147,000	38,660	1,853,804	
経常費用 計(b)	15,594,660	25,057,000	-9,462,340	9,578,474	

過年度損益修正損	22,548
過年度損益修正益	113,821

当期増減額(a-b)	-3,564,660	15,473,000	-19,037,660	11,444,936
前期繰越金	14,976,733	3,633,866	11,342,867	3,633,866
次期繰越額	11,412,073	19,106,866	-7,694,793	15,078,802

事業費(予算・見込み)の内訳

事業名	総額	事業名	金額	見合いの収入
(1)調査研究費	170,000	シギ子部会	170,000	見合いの収入なし
(2)保全・再生事業	10,556,000	開発問題部会	200,000	見合いの収入なし
		水田部会	5,256,000	JFGE:475.6万円、企業協賛金50万円)
		球磨川河口登録支援	150,000	見合いの収入なし
		渡良瀬プロジェクト	2,900,000	Google(協議会預り金:1,343万円)
		久米島プロジェクト	1,830,000	PCA 183万円
(2)保全・再生事業 (政策提言)	544,000	吉野川河口プロジェクト	220,000	見合いの収入なし
		ラムサールアジア地域会合	200,000	うち JFGE:20万円
(3)普及・啓発事業	200,000	CBDCOP16	344,000	うち JFGE34.4万円
		湿地のグリーンウェイブ	200,000	見合いの収入なし
(4)国際協力事業	2,900,000	普及啓発のための諸活動	0	見合いの収入なし
		WWN,WWN-Asia	0	見合いの収入なし
		翻訳プロジェクト	900,000	見合いの収入なし
		日中韓アジア湿地教育ネットワーク(RRC-	0	見合いの収入なし(一部招待の可能性)
(5)ネットワーク推進事業	600,000	RRC-EA主催 研修会@新潟	0	見合いの収入なし
		日韓NGO湿地フォーラム	2,000,000	見合いの収入なし
		ニュースレター	300,000	見合いの収入なし
		ウェブサイトを	200,000	
		湿地ニュースの配信	0	当番制
(6)その他の事業	0	若者との連携	0	
		パンフレット類	100,000	ラムネットのパンフ
		未定	0	その他
		合計:	14,970,000	

※JFGE:地球環境基金、PCA:パタゴニア・CAFアメリカ財団、Google:Google Asia Pacific社、IUCN-J:IUCN日本委員会、GG-lab:ジーズグリーンラボ(後藤)、吉野川P:吉野川プロジェクト、岡

※2 2024年度決算 業務/事務委託費(GG-lab)総額:240万円。うち事業費(業務委託費)105万円(44%・JFGE)、120万円(50%・Google)に按分。残り115万円は管理費(事務委託費)。

## 2024 年度 役員人事(案)

(2024 年 6 月 15 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

### 【理事】

#### 2024 年度から新任(増員)の理事※

理事 小山内朝香 (新任)  
理事 キム・ファン (新任)  
理事 丸山明子 (新任)

#### 2023 年度から継続の理事 (任期 2 年)

理事 (事務局長)	後藤 尚味 (留任)	理事	菅波 完 (留任)
理事 (事務局次長)	安部真理子 (留任)	理事	砂川かおり (留任)
理事	浅野 正富 (留任)	理事	高野 茂樹 (留任)
理事	安藤よしの (留任)	理事	田中 博 (留任)
理事	井口利枝子 (留任)	理事 (共同代表)	永井 光弘 (留任)
理事	柏木 実 (留任)	理事	西井 弥生 (留任)
理事 (共同代表)	金井 裕 (留任)	理事	服部 卓朗 (留任)
理事	亀井 浩次 (留任)	理事	原野 好正 (留任)
理事	呉地 正行 (留任)	理事	舩橋 玲二 (留任)
理事	佐竹 節夫 (留任)	理事	松本 悟 (留任)
理事	陣内 隆之 (留任)		

### 【監事】

監事 嶋田 久夫 (留任)  
監事 堀 良一 (留任)

### 【退任】

理事 勝野 陽子

※新任 (増員) 理事の任期は定款第 16 条 2 の規定により 2025 年度末までとなります。